

やちまた 文化財ボランティア通信

第2号

—平成20年11月—

本年8月に発行しました第1号（創刊記念号）に続き、第2号を発行することができました。八街市教育委員会が推進する文化財保護・活用・継承のための市民・行政協働事業の一環として、文化財ボランティアの活動状況などをお知らせします。また、今号には、文化財ボランティア団体である「八街文化財同好会」の会長からお寄せいただいたメッセージを掲載しました。

●第1号（創刊記念号）以後の文化財ボランティア活動

平成20年8月9日 郷土資料館収蔵資料整備作業②〔八街文化財同好会7名、職員2名〕

平成20年9月13日 郷土資料館収蔵資料整備作業③〔八街文化財同好会8名、職員1名〕

平成20年9月23日 市内樹木調査①〔不思議の会8名、職員1名〕

（八街文化財同好会による10月11日実施予定の郷土資料館収蔵資料整備作業④は強雨のため中止）

平成20年10月19日 市内樹木調査②〔不思議の会8名〕

ボランティアメッセージ



§ 八街文化財同好会の概要と活動 §

「本通信の創刊記念号」に紹介されました本同好会は「八街市文化財ボランティア講座の3年目」を受講しました有志12名により平成20年1月に設立されました。女子大生1名を加えて若やいだ心を持つ八街を愛し、好奇心旺盛な熟年を主体にした会です。

3月に臨時総会を開催し、会則と役員及び予算並びに行動計画などを決定して4月から活動を開始しました。

現在行っています活動は、八街の文化財を自分たちの目で確かめること並びに市と協働して文化財を整備して維持することです。

1つ目は“ふれあいバス”を利用して文化財を確認して歩く活動として実施しており、カタクリ群生地と川上地区（用草・根古谷・岡田地区）探索を実施しました。また、2つ目は郷土資料館の収蔵資料を整備する作業として実施しています。2回実施して、整備した民具類を格納する倉庫の整理を行いました。次回から民具類の整備に取り掛かる予定です。

これまでは会員の7割近くの参加を得て活発な活動が出来ました。これからも会員の親睦と連携を図りながら、活動をじっくりと粘り強く継続して行きたいと考えています。

平成20年8月

文責：会長 塩野 貞昭

●文化財ボランティアの近況

八街文化財同好会

(会員数12名：男性7名・女性5名)

平成20年8月9日(土)と9月13日(土)、市郷土資料館の資料整備作業を実施いただきました。

2回目となる8月の作業では、新たに民具を収蔵する物置の整理に奮闘いただきました。

また、9月からは、鉄製農耕具をはじめとする民具類の整備に本格的に着手しました。これまで市民の皆様から寄贈いただいた鉄製農具の清掃、錆落とし、防錆処理などを実施していますが、どの資料も錆とホコリまみれですので、同好会の皆さんにお掛けする苦勞は計り知れません。

10月11日(土)の作業はあいにくの強雨のため中止となりました。



不思議の会

(会員数8名：男性8名)

本年9月から、不思議の会と市教育委員会との協働事業として、市内に所在する巨樹・巨木を把握するための樹木調査(基礎調査)に着手しました。

教育委員会では、市指定文化財を拡充するために候補物件を把握することや、市史編さん事業のために自然系資料の調査を実施する必要性を感じていましたが、不思議の会の皆さんから、調査に全面的に協力するとのことのお申し出をいただき、樹木調査を実施することとなりました。

9月には住野から一区にかけての市内北部地区を、10月には大関から用草にかけての中西部の巨樹・古木の調査を実施しました。

今後も毎月調査を実施する予定ですので、所有者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

また、これまであまり知られてこなかった巨樹・古木をご存知の方は、情報提供をお願いします。



個人登録者の活動

(登録者数9名)

文化財ボランティア登録者である高橋 誠一さんは、市中央公民館からの依頼を受けて、主催講座『生きがい短期大学』のキャリアキュラムの一つである「“やちまた”知っていますか」の講師を担当されています。9月10日は、「郷土の偉人、縁の人」と題して、本市の歴史上欠かすことのできない人たちの功績などについての講義をされ、9月24日は、「市内の史跡・文化財案内」と題して、高橋さんの案内で、市内に所在する文化財の見学を行いました。いずれの講義も、日頃から文化財や郷土史の研究を深めておられる高橋さんならではの講師ぶりでした。

八街文化財同好会 “ふれあいバスで行く文化財探索”

八街文化財同好会の皆さんは、会独自の活動として文化財探索を実施し、文化財の学習のみならず、ふれあいバスの利用促進にも貢献いただいています。

2回にわたるふれあいバスを利用した文化財探索の行程をご紹介しますので、興味のある方は参考にされてみてはいかがでしょうか？

カタクリ群生地探索

☆ふれあいバス“西コース”利用〔平成20年3月30日(日)実施〕

○行き	ふれあいターミナル	10:50	⇒	11:35	いさご会館
◎探索	カタクリ群生地(日枝神社)	11:35	～	12:15	
(徒歩)	昼食	12:15	～	12:45	
	本源寺	12:50	～	13:15	
○帰り	いさご会館	13:37	⇒	14:21	ふれあいターミナル



カタクリの花

※「情報：入口の三峯（西面）神社祠内部に蜂が巣を作っているようです。注意！」という情報もお寄せいただきました。皆さん、ご注意ください。

川上地区（用草・根古谷・岡田地区）探索

☆ふれあいバス“中コース”利用〔平成20年7月19日(土)実施〕

○行き	ふれあいターミナル	10:50	⇒	11:20	用草公民館
◎探索	斉藤考谷翁寿蔵碑	11:27			
(徒歩)	馬頭観音像	11:40			
	皇産霊神社	11:50			
	昼食	11:55	～	12:30	
	根古谷城跡	12:45			
	法宣寺	13:00	～	13:15	(休憩)
	岡田の神社集落	13:20	～	13:25	
	岡田馬頭観世音堂	13:30	～	13:40	
○帰り	岡田	13:40	⇒	14:15	ふれあいターミナル

(↓ ほぼ中央部のお釈迦様の右腕に抱かれるように見える建物が法宣寺)



“寝釈迦山(ねじゃかやま)”

文化財情報コーナー

“榎戸獅子舞”奉納復活!!

10月19日（日）、榎戸大宮神社の秋祭りで、八街市指定無形民俗文化財の「榎戸獅子舞」が11年ぶりに奉納されました。

この獅子舞は、寛永元(1624)年頃、当時、佐倉城主であった土井利勝が榎戸新田村の開発とともに村民に娯楽を与えようと佐倉地方から導入したと伝えられるものです。

以来、戦中・戦後等を除き、天下太平・五穀豊穡を祈願して地元の人々によって受け継がれてきたものですが、近年は、後継者不足等により平成9年を最後に獅子舞の奉納を中断せざるを得ない状況となっていました。榎戸区と榎戸獅子舞保存会の皆さんは、このまま貴重な文化財を消滅させてはならないとの思いから、一丸となって努力を積み重ね、今回の奉納舞の復活を成し遂げられました。



“文違麦つき踊り”を披露!

10月12日（日）、八街市スポーツプラザを会場に開催された市民体育祭で、八街市指定無形民俗文化財の「文違麦つき踊り」が披露されました。

この踊りは、明治20年頃から文違地区で先祖の供養と農民の楽しみを兼ね、毎年盆休みに、唄い踊られ続けてきたものです。

明治の初め頃、開墾で入植した人々の主食は麦でした。重い杵を振りかざし、一年分の麦を精白する作業は当時の農民にとって苦しい作業の一つであり、この苦労の中から麦つき唄と麦つき踊りが生まれたといわれています。麦つき踊りをまもり続けているのは、「文違麦つき踊り保存会」の皆さんで、市民体育祭では、毎年、アトラクションとして披露されています。



郷土資料館“企画展”開催中

八街市郷土資料館では、9月24日から12月7日まで「弥生画帖 ^{スケッチ} ～八街なぞの弥生時代～」を開催しています。八街市域では、これまでこの時代の明確な痕跡は発見されていないため、本市にとっての弥生時代は“なぞの時代”といっても過言ではありません。今回の企画展では、近隣から出土した弥生土器や稲作を裏付ける炭化米などの貴重な資料を多数展示しています。また、お子さまが楽しめる体験コーナーもありますので、この機会にぜひご来館ください。



この通信紙に対するご意見・ご要望、または、文化財保護やボランティア活動に関するご意見・ご要望などがありましたら、社会教育課文化財班へどしどしお寄せください。可能な限りこの通信紙に掲載して、皆さんへお届けしたいと考えています。

やちまた文化財ボランティア通信 第2号

発行日 平成20年11月5日
編集・発行 〒289-1192 千葉県八街市八街ほ35番地29
八街市教育委員会 社会教育課 文化財班
Tel : 043-443-1464 Fax : 043-443-1448
e-mail : shakyo@city.yachimata.lg.jp